

# サッカーを見て、科学・技術を想う



石坂 誠一

\* 財団法人 化学・バイオつくば財団 理事長

サッカーのワールドカップが終わり、静けさが戻って来た。世界最大といわれるお祭りを日本と韓国が共催し、日本は16強の中に入り、驚くことに、韓国が4位になったことは、大成功と評価できよう。サッカーは各選手の個人技のレベルの高さとチームプレー、そしてチームの精神力が一体になった時に最大の力を発揮することが実証された。

科学・技術の研究でも、プロジェクトチームを作って成果を国際的に競う場合には、サッカーと共通の面が多く、個々の研究者のレベルの高さとチームプレー、集中力等が揃っていることが肝心である。特に強調したいのは、サッカーの監督と同じく、チームリーダーに良き人材を得ることが必要である。個性の強い個人の集団を纏めるには、戦術に長ずるだけでなく、各研究者の信頼を受ける人物でなければならない。

科学・技術に関する研究開発を総合的に見ると、サッカーとは著しく異なる面がある。科学・技術上の大きな革新は、個人の独創力に負う所が多い。これは今後も同じであろう。総じて日本の大学は、個々の教員の集合であって、組織的な活動、即ちプロジェクトチームを組むことには向かない体質がある。他の組織あるいは個人との提携がせいぜいであろう。従って、大学では個人が伸び伸びと自分の才能を発揮できるよう、後進の指導以外の雑務から解放し、研究に専念できる環境を作るのが一番良いように思う。

産業技術総合研究所は、企業の研究所でも、大学でもない。新しい産業分野を開拓する為の研究を実施することが最重要命題であろう。従ってプロジェクトチームを作り、目的とする研究開発を実施し、その成果を民間企業の開発と実用化へと繋げることが主な仕事となる。それと同時に大切なことは、次のプロジェクト研究のシーズを探り、これを育て、合わせて、プロジェクトリーダーの養成にも配慮することも忘れてはならない。